

令和元年度 日本橋中学校外部評価報告書

評価委員：岩田博 委員長、高橋 道儀 副委員長、平賀 孝男委員、喜多 隆正委員
郷 金二郎委員、宮崎 弘次委員、佐藤 寛 委員、倉谷 通孝委員、
中多 宏之 委員 清水 晶子 委員 報告書作成者：本山 文子 委員

評価時期 平成31年2月

1 重点目標の評価

重点目標1

(生徒一人一人を大切にした学習指導で学びの質を保障し、確かな学力の向上を図る。)

学力向上に関する取組の評価として

- ・多くの生徒が、落ち着いた学校生活を送っているように見受けられた。授業規律については、生徒の意識が高く、日頃から学校の指導の成果が表れている。
- ・サプリノートの活用については、家庭との連携を含め課題はある。来年度一部内容を変更して活用する予定である。
- ・授業内容の質に関する部分では、生徒は75%を超える肯定的評価があったが、保護者は60%と低い数値となった。保護者と20%の生徒の下位評価を追跡し、理由を明確にしたうえで授業の改善をする必要である。

重点目標2

(暴力やいじめがなく、生徒同士、生徒と教師が、規律をもって豊かに関わり合う。)

- ・深刻ないじめ問題は起きていないとの報告があった。ただし、「先生はいじめ・不登校問題行動等の未然防止や早期発見をしていると思いますか」の質問に生徒、保護者とも、教員に比べて肯定的評価が低い。いじめと不登校が同一の質問になっているので明確にして調査する。
- ・道徳科の授業では、話し合い活動が活発に行われ、生徒は充実した時間を送っている。道徳授業地区公開講座の際、どのクラスも活発に話し合い活動が行われていた。
- ・運動会、学習発表会など全生徒が積極的に活動しているのがよくわかる。行事における充実感や達成感や深め、学校生活を過ごしている様子が、アンケート調査からも伺われる。
- ・委員会活動やボランティア活動に積極的に取組む生徒が年々増えている。

重点目標3

(日々の学校生活を健康・安全に過ごすとともに、将来展望性をもたせる活動を充実させる。)

- ・オリンピック・パラリンピック教育に関する質問に対する保護者の「わからない」との回答が非常に多かった。取組内容の周知方法を工夫する必要がある。
- ・進路を主体的に考える学年での取組に、多くの生徒が肯定的に捉え自らの進路を考えている。
- ・外部講師を招へいしての講演会(オリンピック・パラリンピックを含む)は、教員の評価が低い。将来につながる講演者・内容を精査し計画する必要がある。

2 今後の改善に向けた意見

- ・学力向上に関しては、保護者の関心が高いのは分かる。日本橋中はどの授業も生徒が一生懸命行っている。学習発表会の作品も素晴らしいものが多い。
- ・生徒の学校評価を終え、その結果を保護者に伝えた後に保護者アンケートを実施したのは成果が上がり回収率が85%以上になるのは理解できる。一方で、「わからない」と回答した保護者の割合が多いのが気になる。学校の様子を見てもらうための工夫が必要である。
- ・ICT教育は遅れていると聞いている。区の方向性を知りたい。また、道徳の教科化、特別支援教育はこれからどのように変わっていくのか様子を見ていきたい。

3 その他の意見

- ・コロナウィルスの対応。学習発表会の中止は残念。
- ・ICT・デジタル教科書の使用状況について整備中。今年度はプロジェクター7台導入、各教科の授業で展開している。タブレットは今後、区より導入予定。運動会、学習発表会など全生徒が積極的に活動しているのがよくわかる。